ディズニー映画における女性キャラクターの変化
−労働状況・シスターフッドの視点から−

近年では女性労働状況は上昇傾向であり、ウーマンリブ時代に誕生して使用されていたシスターフッドという言葉が再び注目を集めている。そしてブランド力が凄まじく人々のステレオタイプに対して多大な影響を与えてきたディズニー作品であるが、ステレオタイプの一例として挙げられることが女性の労働を作中にどのように描写しているのだろうか。本稿ではディズニー作品に見られる女性の労働状況とシスターフッド関係を読み解き、従来作品と現代作品の異なる点や両者に因果関係はあるのかという問いに焦点をあて考察することを目的とする。

1930 年から 1950 年に公開された作品の労働状況としては、家父長制が背景にあることから無償労働を実施している描写が多く、シンデレラコンプレックスを示唆していた。シスターフッドの視点では、女性同士の関係は険悪であることが描写されている。1980 年代から 2000 年代に公開された作品ではウーマンリブ直後の社会背景から、社会や労働に対して憧れている場面があり自己決定権や自立心を持ったキャラクターが描かれていた。シスターフッドの視点からでは、女性同士の関係は良好である描写が度々存在していた 2000 年から現在までに公開された作品では、フェミニズムが多様な視点から注目されるようになった時代背景から、女性キャラクターは有償労働や国の統括を実施している描写が存在していた。そしてシンデレラコンプレックスを否定しているような描写が存在していた。シスターフッドの視点からでは、従来の作品と比較して女性連携に対して焦点を当てている場面が多く存在していた。アニメ版作品と実写版作品では、今回取り上げた 3 作品では全てシスターフッド関係が存在する作品に変化していた。

以上の点から、社会変化がディズニー作品に登場する女性キャラクターの労働状況やシスターフッド関係の増加に影響を与えていると考えられる。従来のステレオタイプから社会に参加したいと意思のある自ら道を切り開く女性キャラクターに変化している。シスターフッド関係が基盤にあることで、女性キャラクターが持っている社会へ参加したいという意思をより発揮することに繋がっていると考察する。これらは現実社会でも重要な事柄であり、個人やコミュニティに対して健康な発展に貢献するシスターフッドは今後の女性の労働含むフェミニズムを進展させるために不可欠である。今後のディズニー作品でも昨今の社会変化に伴い、フェミニズム的な要素が協調され、女性キャラクターがより多様で社会に参加する描写が増加していくのではないか。